宮古市
Miyako City

# 令和８年度
# 宮古市経営方針

令和８年２月１３日

# はじめに

宮古市議会令和８年３月定例会議の開会に際し、令和８年度当初予算並びに諸案件のご審議をお願いするにあたりまして、市政運営についての所信と施策の概要を申し述べ、議員の皆さま並びに市民の皆さまのご理解とご協力を賜りたく存じます。

令和７年６月６日、本市は新市誕生から 20 年を迎え、新たなスタートを切りました。

令和７年は、４度にわたる津波注意報や津波警報の発令、さらには北海道・三陸沖後発地震注意情報が初めて発表されるなど、災害への警戒が一層求められた一年でした。

東日本大震災の発生からまもなく 15 年を迎えるなか、自然災害の脅威を忘れず、記憶や教訓を次世代に伝え、命を守る知恵を未来へつなぐことの大切さを改めて感じる１年となりました。

本年１月に開催された「第 102 回箱根駅伝」では、本市出身の中澤星音選手が、日本大学陸上競技部の主将として９区のランナーを務めました。

力強い走りで襷をつなぎ、多くの市民に勇気と感動を与えた若きランナーの奮闘は、地域の可能性を信じ、未来を切り拓く力が本市に息づいていることを示してくれました。

令和８年は、宮古市民文化会館が開館 50 周年を迎えます。この施設は、半世紀にわたり、市民の文化活動の拠点として、まちの営みと共に歩んでまいりました。

文化の力は、地域を元気にし、人と人をつなぎます。皆が文化に親しみ、豊かな時間を育むことができる環境づくりを進めてまいります。

人口減少や物価高騰など、社会を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあります。

今ここで暮らす市民が生きがいや充実を感じ、未来に希望を抱くことができるまちにするため、地域の課題を共有し、一つひとつ解決につなげてまいります。

先人から受け継いだ歴史や知恵を力に、そして若者の発想と新しい風を取り入れ、多様な価値を活かした新しい宮古市を皆で創ってまいります。

# １.総合計画の着実な推進

総合計画に掲げる都市の将来像である「『森・川・海』とひとが調和し共生する安らぎのまち」を実現するため、３つの基本方針に基づき、多様な取り組みを着実に展開してまいります。

## （１）自然と共に生きるまちづくり

本市は、美しい森と豊かな海が清らかな川により結ばれています。また、三陸復興国立公園、早池峰国定公園を有する自然環境に恵まれた地域です。

近年、「三陸ジオパーク」や「みちのく潮風トレイル」など、地域が誇る自然環境を生かした取り組みが行われています。この恵まれた自然環境を守り育て、さらなる「磨き」をかけ、次代へ継承していくことが重要です。

時として、洪水や津波などの災害をもたらす自然を理解するとともに、「森・川・海」の環境を守ることを基本として、これらを生かしたまちづくりを進めてまいります。

## （２）健やかで心豊かな人を育むまちづくり

急速に進む少子高齢化に対応した、持続可能なまちづくりのためには、地域に暮らす人々が健やかに、そして心豊かに生活する環境の整備は不可欠です。

保健・医療・福祉など、心身の健康を支えるサービスの充実とともに、未来を担う子どもたちを安心して産み、育てることができるまちづくりを進めてまいります。

また、すべての人が生涯にわたって心身ともに健やかな生活を送り、地域の活動に参画し活躍できるまちづくりを推進してまいります。

## （３）多様な産業が結びつき力強く活動するまちづくり

少子高齢化による社会構造の変化、物価の高騰、技術革新など、地域産業を取り巻く環境は日々変化しています。

社会の変化に柔軟に対応した自立的な地域経済を創出することは、本市の重要な課題のひとつです。

『森・川・海』の豊かな地域資源を活用した観光振興や永続的で持続可能な農林水産業の推進、港湾や交通ネットワークを活かした物流や交流人口拡大への取り組み、モノを生み出す環境づくり、異業種間連携の促進など、多様な産業が結びつき、力強く活動し、地域経済の好循環を生み出す取り組みを展開してまいります。

# ２.重点施策

令和８年度は、次の５つの重点施策を柱にまちづくりを進めてまいります。

## （１）地域産業の振興

長引く物価高騰は、多様な産業に大きな影響を及ぼしています。
市内経済の活性化には、産業基盤の強化と、変化に柔軟に対応できる、強くしなやかな産業構造の構築が求められます。

本市は、地域資源を最大限に活かした産業の振興と、事業者の挑戦を後押しする環境づくりに取り組みます。
地域産業を支える中小企業の円滑な事業承継は、重要な課題です。
後継者不足に悩む事業者への相談体制の充実を図るとともに、新規創業支援にも力を注ぎ、多様な人材が地域に新たな価値を生み出せる土壌を育ててまいります。
また、異業種間の連携が活発に展開される風土づくりにも取り組みます。
多様な主体が力を合わせることで、地域産業の可能性は大きく広がります。様々な企業の声を丁寧に吸い上げながら、課題を適切に捉え、「場づくり」や「コーディネート」の役割を担ってまいります。

本市は、限りある天然資源の恵みを活かしつつ、「つくり育てる漁業」による持続可能な水産業を目指し、養殖漁業の推進に向けて取り組んでまいりました。
令和７年 10 月には、市と宮古漁業協同組合、日清丸紅飼料株式会社との三者で「魚類養殖業の振興に関する連携協定」を締結しました。
この協定により、種苗及び飼料の安定的な供給体制が確保されるとともに、養殖技術の向上、商品のブランド化など、多くの効果が期待されます。
重茂漁業協同組合では、２つの地区において養殖ワカメ・コンブの生産の効率化と施設の強靭化を図った養殖施設の更新に取り組み、増産を目指しています。
田老町漁業協同組合では、陸上養殖によるウニの畜養について、課題である飼育期間の短縮と歩留まりの向上に取り組み、増産による通年での生ウニの出荷を目指しています。
「つくり育てる漁業」のさらなる推進に向け、官民連携して力強く取り組んでまいります。

令和７年度は、工場立地協定を締結したカネ弥株式会社の工場が新たに稼働しました。また、９月にはミキフーズサプライ株式会社と工場立地協定を締結し、操業が開始されています。
この２社の立地により、新たに 36 人の新規雇用が生まれています。

さらなる新規雇用の創出、地域経済の活性化に繋げるため、新規立地、既存企業の増設等が図られるよう、継続して取り組んでまいります。

令和８年度のクルーズ船の寄港は、令和７年度の 16 回を大きく上回る、25 回の寄港が予定されています。

国内外から注目を集める「みちのく潮風トレイル」においては、一般社団法人浄土日和が実施するトレイルガイドの利用客が年々増加傾向にあり、令和７年 12 月末時点で延べ 4,000 人以上と、昨年を大きく上回る実績をあげています。

年々高まりを見せるインバウンド需要を好機として、観光消費をはじめとした地域産業へのさらなる波及を目指し、誘客促進や受入れ体制の整備を図ってまいります。

本市には、県大会や東北大会など数多くの大会を誘致している宮古市民総合体育館、夏は冷涼で、冬は積雪が少ない恵まれた気候を活かし、多くのチームが合宿に訪れる宮古運動公園、県内外から毎年多くのランナーが参加するサーモン・ハーフマラソンなど、恵まれたスポーツ環境があります。

これらのスポーツ環境を地域の魅力として発信し、観光をはじめとした地域産業との連携により、交流人口の拡大を図ってまいります。

## （２）ひと・地域を育てる環境の充実

本市の未来を支えるのは「ひと」であり、「ひと」を育むのは「地域」です。
各地域では、それぞれの特色に合わせた個性豊かな生活が営まれています。

魅力あふれる地域で育まれた、多くの若者が、未来の地域づくりやまちづくりの主役として羽ばたくため、市民の皆様と行政が互いに支え合い、協働し、共に課題に向き合う環境を創ることが、未来への確かな一歩となります。

地域の課題を自らが解決する力を高めるとともに、新たな担い手の育成を応援する「元気な地域づくり補助金」は、令和７年度には 19 件の交付を決定し、高校生から高齢者まで、幅広い層の皆様に活用いただきました。
音楽、郷土芸能、スポーツ、自然体験など、様々な取り組みを通じて、地域の賑わいを創出しようという市民の皆様の創意工夫が見られ、これらの取り組みが、確実に地域を元気にしていくものと確信しています。

「男女共同参画基本計画」は、令和８年度から新たな計画期間に入ります。
性別、年齢、国籍などに関係なく、誰もが互いの存在を認め合い、「生きづらさ」を感じることなく、多様な人材が自己を表現できるまちを目指し、取り組みを進めてまいります。

社会福祉法人新里紫桐会が運営する特別養護老人ホーム紫桐苑では、初めてインドネシアから外国人材を受け入れました。
受入れにあたっては、事業者と宮古市国際交流協会、そして地域が連携し、共生のための環境整備を進めてきました。
外国人材は、地域の行事に積極的に参加し、地域との「顔の見える交流」が育まれています。
このような多文化共生の芽吹きをさらに多くの地域に拡げ、多様な文化が共に息づく地域社会の実現を目指してまいります。

## （３）賑わいのある中心市街地の形成

本市の中心市街地は、市民の交流と経済活動の核となる重要なエリアです。
近年は、人口減少や生活様式の変化により、来街者の減少や空き店舗の増加など、活力の低下が課題となっています。
中心市街地に「ひと」が「集い、歩き、楽しむ」まちとするため、魅力と回遊性の向上を軸に、賑わいが生まれる環境づくりを進める必要があります。

宮古駅前エリアの再整備は、本市の未来を創るための重要なプロジェクトです。
令和７年度は、老朽化が進む旧キャトル店舗の解体と並行し、宮古駅前エリア再整備の基本的な方向性を整理しました。
令和８年度からは、空き店舗を活用した社会実験を実施し、必要な整備内容を見極めつつ、市と協働してまちづくりを担う「プレイヤー」となる民間事業者を見出してまいります。
未来を創るための道のりを、一歩一歩、着実に進めてまいります。

## （４）地域脱炭素の実現と地域内経済循環の拡大

国の認定を受けた「脱炭素先行地域」及び「脱炭素重点対策実施地域」として、地域脱炭素の実現と地域内経済循環の拡大に取り組んでいます。

令和７年 12 月には、「脱炭素先行地域」の主要事業となる「夜間連系太陽光発電所」が商業運転を開始しました。
蓄電池併設型であり、昼夜を問わず、電力を供給することが可能となりました。
この発電所で作られた電力は、宮古新電力株式会社を介して 18 の公共施設に供給されており、再エネの地産地消の実現に大きく貢献しています。
目標総額８千万円の市民ファンドにより、地域に根ざした再エネ事業として取り組んでまいります。

地域脱炭素の実現に向けては、市民の皆様と共に推進していくことが重要です。
市内事業者、地元金融機関をはじめとした関係機関と連携し、市民の皆様に経済的なメリットを分かりやすくお示ししながら、「省エネ」・「再エネ」・「蓄エネ」の導入をより一層推進してまいります。

計画に掲げる事業の着実な進展を図りながら、東日本大震災以降、官民連携により築いてきた礎をさらに強固なものとし、「2050 年ゼロカーボンシティ」の実現に向けて取り組んでまいります。

## （５）積極的、効率的な行財政運営

変化し続ける社会情勢に適切に対応するため、事務事業の見直しと効率化を進めるとともに、自主財源の確保に努めます。
また、限られた財源を「選択と集中」により最大限に活用しながら、政策を推進してまいります。

令和８年度は、新たな組織体制のもと、未来への改革に取り組んでまいります。
人口減少や少子高齢化、物価の高騰など、様々な社会的変化を背景に、自治体の役割は多様化・複雑化しています。
業務が増大することで、組織が停滞していく現状を克服するため、組織を「掻き混ぜる」決断をしました。
組織全体の活力を高め、変革を促し、横断的・能動的に、実行力を持った組織として、一丸となって政策の推進を図ってまいります。

「ふるさと納税」は、新規返礼品の開発と併せて、ポータルサイト等を通じた情報発信に積極的に取り組みました。この結果、令和７年度は過去最高となる約 32 億円の寄附が見込まれています。
また、令和７年度の「企業版ふるさと納税」は、数多くの地域外企業から本市の取り組みへご賛同いただいた結果、過去最高となる約 1,000 万円の寄附が見込まれています。
ネーミングライツ事業については、東北ヒロセ電機株式会社が新たに宮古市民総合体育館のネーミングライツを取得し、本年４月より「東北ヒロセシーアリーナ」の愛称が付されます。「東北ヒロセ陸上競技場」、「東北ヒロセ野球場」に続く、本市で３施設目のネーミングライツ施設となります。
引き続き、さらなる自主財源の確保に努めるとともに、情報発信力を高め、本市の魅力を内外に伝え、より多くの皆様から選ばれるまちとなるよう取り組みを進めてまいります。

# ３.新年度予算の概要

新年度予算編成にあたっては、重点施策に基づき予算配分を行い、一般会計は総額 367 億 7,900 万円といたしました。

このほか、特別会計予算総額が 132 億 968 万 2 千円、公営企業会計予算総額が 59 億 4,867 万 4 千円で、すべての会計を合わせた当初予算の総額は 559 億 3,735 万 6 千円といたしました。

| 会計 | 当初予算総額 | 対前年度比 |
|---|---|---|
| 一般会計 | 367 億 7,900 万円 | ＋18 億 7,900 万円（+5.4%） |
| 特別会計（10 会計） | 132 億 968 万 2 千円 | ＋1 億 7,465 万 9 千円（＋1.3%） |
| 公営企業会計（２会計） | 59 億 4,867 万 4 千円 | ＋5 億 8,543 万 8 千円（＋10.9%） |

## むすびに

令和８年度は、「未来を創る」ための挑戦の年です。

昨年工場立地協定を締結したミキフーズサプライ株式会社の吉田真也社長は、締結式の場において「雇用創出と経済発展につなげ、まちの元気を取り戻したい」と力強く述べられました。
ふるさと納税の返礼品提供をきっかけに生まれた縁、そして本市出身の吉田社長の「ふるさとに貢献したい」という強い想いが工場の立地として実を結び、本市の未来を開く、大きな一歩となりました。

宮古湾では、民間事業者の連携により、新たにギンザケの海面養殖の取り組みが始動しています。

「ふるさとの力になりたい」、「地域の未来に寄り添いたい」と願う人は、市内外に多くおられます。
私たちは、そうした想いをもつ人々との出会いを大切にし、そのつながりを丁寧に育み、まちの力へと結び付けていく役割を果たしていきます。
ひとを大切にし、出会いを大切にし、想いを形に変えていく宮古市を、皆様と一緒に創り上げていきましょう。

多様な人材が、自己を表現し、それぞれの魅力を活かし活躍できるまち
ひと、地域、事業者の未来へ向けた挑戦を後押しできるまち
行政は、「水を運ぶ人」となり、誰かのために汗をかく存在として、市民の皆様の挑戦をサポートし、未来を創るための土台づくりを進めてまいります。

寛容に、協調し、市民の皆様が一つでも多くの幸せを享受できるよう、子どもたちに希望あふれる未来が残せるよう、誠実に、着実に、そして前向きに取り組んでまいります。

議員、市民の皆様のご理解とご協力を心からお願い申し上げ、経営方針の説明とさせていただきます。